

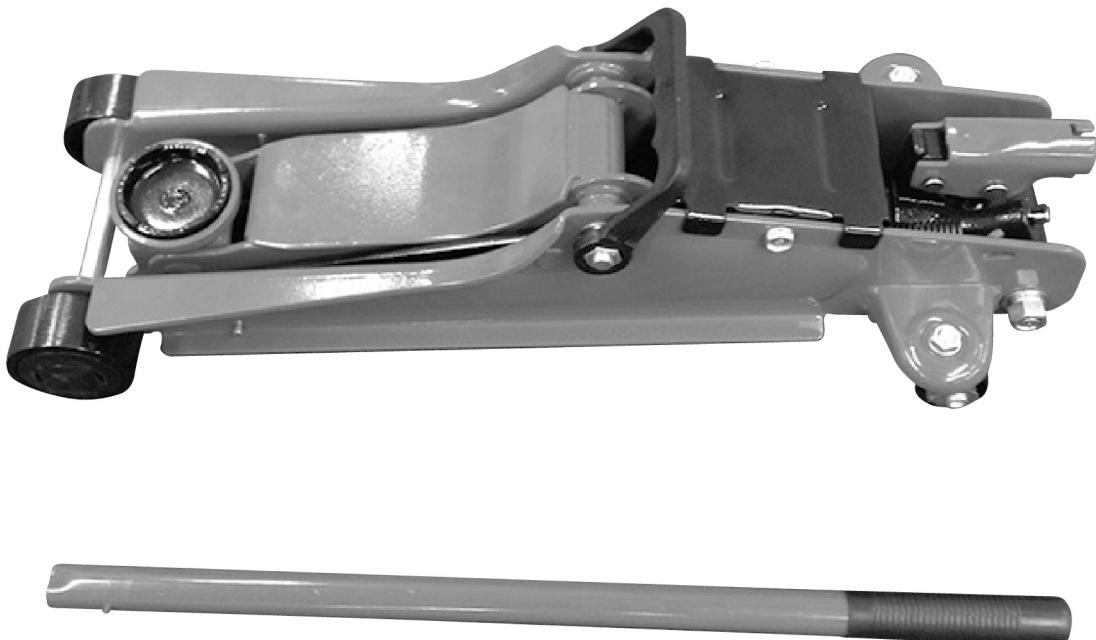
取扱説明書

モノタロウ

低床フロアージャッキ(2t)

注文コード: 75090444

このたびは、低床フロアージャッキ(2t)をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ご使用前に本書を必ずお読みのうえ、正しく安全にご使用ください。



目次

1. 安全にお使いいただくために.....	P.1 ~
2. 各部の名称.....	P.4 ~
3. ご使用方法.....	P.5 ~
4. ジャッキアップ手順.....	P.9
5. 保守・メンテナンス.....	P.10 ~
6. 故障と処置.....	P.11
7. 製品仕様.....	P.11
8. 関連商品.....	P.11

1 安全にお使いいただくために

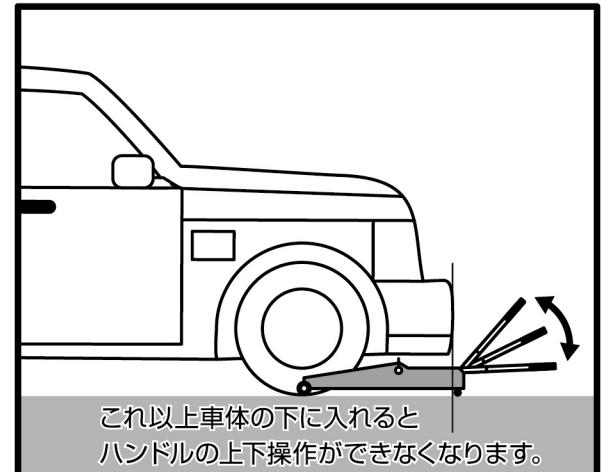
この取扱説明書をお読みになった後も、お使いになる方がいつでもご利用できる場所に大切に保管してください。用途以外でのご使用、またこの取扱説明書に明記された内容を守らなかった場合に起きた事故・故障・修理その他の不具合についての責任は一切負いかねますので、ご了承ください。

■ 使用の目的

- 本製品は自動車のタイヤ交換、タイヤチェーンの着脱や整備の際に自動車をジャッキスタンドで保持させるためにジャッキアップやジャッキダウンさせる目的で使用する製品です。本製品で自動車をジャッキアップした状態で洗車作業などのご使用はできません。

ジャッキアップした状態のままで保持させる際は、

必ず別売のジャッキスタンドをご使用ください。



!**危険**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が切迫して想定される内容をしめしています。

!**注意**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷の発生が想定される内容を示しています。



ご使用前の点検

- ☆下記項目を必ず確認してからご使用ください。
- ☆ご使用になる度に、正常に作動するか必ず確認してください

- ボディのゆがみ、錆び、亀裂、および各ネジのゆるみがないかどうか。
- ハンドルと本体との接合部分の確認、およびシリンダーのオイルもれがないかどうか。
- ポイント位置確認、および使用場所が平坦であるかどうか。

■ 使用上の注意

!**危険**

- ジャッキを改造したり用途以外の目的で使用をしないでください。
- 取扱説明書をよく読み十分理解されて上で使用してください。取扱説明書には重大な事項の説明が記載されています。記載内容と異なった使用をした場合、重要な事故につながります。
- 安全バルブ(DO NOT ADJUST)は出荷時に適正な荷重になるように調整されています。個人での調整などは絶対に行わないようお願いします。
- ジャッキを使用する際は、車体の下や周りに人や物などがないことを確認してから作業を行ってください。また、ジャッキアップ中に車両の下に入らないでください。

●本製品はジャッキアップするためにご使用いただくものです。ジャッキアップ状態を保持するためのものではありません。ジャッキアップした状態のままで保持させる際は、必ず別売のジャッキスタンドをご使用ください。

- ジャッキに異常が見つかった場合(オイルもれ、本体の変形など)は、使用を中止してください。そのまま使用すると重大な事故につながるおそれがあります。
- 最大荷重2tを超える負荷で使用しないでください。

!**注意**

- 2台以上の複数のジャッキを同時に使用しないでください。
 - 本製品は-20°C~45°Cの温度環境で使用してください。
- 本製品は業務用には使用しないでください。**

■ 安全上の注意

!**危険**

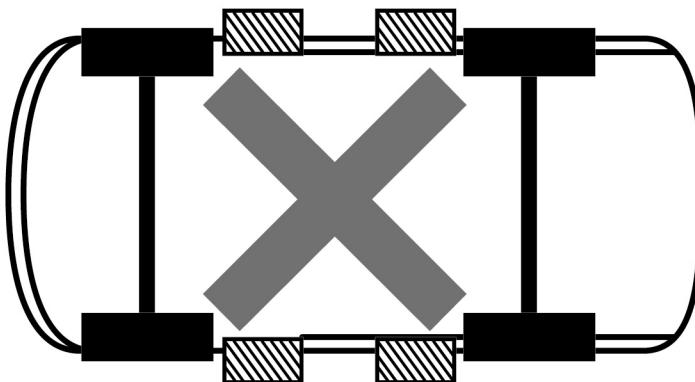
- 電子制御エアサスペンション装着車はジャッキアップの際、必ず車両の取扱説明書をご確認の上で作業を行ってください。車高がかわり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ご使用前に無負荷状態でジャッキアップテストを実施してください。もし不具合な点がありましたら、直ぐに使用を中止してください。そのまま使用した場合、車両やジャッキの破損だけではなく、ケガや人命にかかる事故を引き起こす原因となります。不具合な点がありましたら、必ずご使用前に弊社お問合せ窓口までご連絡ください。また、使用して製品に異常がでた場合もすぐに使用を中止し、弊社お問合せ窓口までご連絡ください。
- 絶対に最大荷重2tを超える負荷で使用しないでください。ジャッキが荷重に耐えられずジャッキスタンドが破損し車両が落下するだけではなく、ケガや人命にかかる事故を引き起こす原因となります。
- ジャッキを使用する際は、車体の下や周りに人や他の車両などがないことを確認してください。まわりに人がいた場合、万が一車両が動いた場合、ケガや人命にかかる事故を負わせてしまうおそれがあります。必ずジャッキアップ車両の3メートル以内に、人がいない事を確認してから作業を行ってください。またジャッキアップする車両が他の車両や物に衝突するおそれがあります。ジャッキアップする車両の、まわりに他の車両や物がないことを確認してから作業を行ってください。
- ジャッキアップする際は、必ず平らで固い路面の上で行ってください。設置面が柔らかい場合、荷重により本製品の車輪が設置面に埋まり、設置面を傷付けるだけでなく、ジャッキが傾き車両が落下するおそれがあります。斜面でのジャッキアップも同様で、車両が落下するおそれがあり、車両やジャッキの破損だけではなくケガや人命にかかる事故を引き起こす原因となります。
- ジャッキアップする前に、必ず車のサイドブレーキを引き、ジャッキアップしない方のタイヤに輪止めをしてください。そのままジャッキアップした場合、車両が動きジャッキが外れ車両が落下するおそれがあり、車両やジャッキの破損だけではなくケガや人命にかかる事故を引き起こすことにもなりますので必ず実施してください。
- ジャッキポイントは車種によって異なります。自動車に添付の取扱説明書、または自動車メーカー・販売店等へ問い合わせし、必ず事前に確認してください。強度不足の場所でジャッキアップを行った場合、車両の破損ばかりではなくケガや人命にかかる事故を引き起こすこととなります。
- 車両指定のジャッキポイントでジャッキアップする場合、ジャッキポイントの形状とサドルの形状が合っているかを必ず確認してください。形状が合わない場合に無理にジャッキアップするとジャッキポイントが破損するおそれがあるだけではなくケガや人命にかかる事故を引き起こすこととなります。
- 安全のため、必ず別売のジャッキスタンドで支えながら作業を行ってください。**
ジャッキだけで支えた状態は1点だけで支えているのでバランスが悪く、作業中に車両が落下するおそれがあり、車両やジャッキの破損ばかりではなくケガや人命にかかる事故を引き起こすことにもなります。必ず作業する際は2個のジャッキスタンドで確実に車両を支えてから行ってください。
- ジャッキアップ中に車両の下に頭や体を入れないでください。万が一、ジャッキアップ中にジャッキポイントからサドルがズレて落下した場合、車両やジャッキの破損だけではなくケガや人命にかかる事故を引き起こす原因となります。
- ジャッキを下げる際は、車両の下に人がいる事とジャッキを下ろす人の体が車両に当たらないかどうかを確認してください。人が車両の下に入っている状態でジャッキを下ろした場合、車両に押しつぶされるだけではなく人命にかかる事故を引き起こすことになります。また、ジャッキを下ろす人やそれ以外の人の体が車両に当たる位置にいますと下ろした際に車体に当たりケガをするおそれがあります。
- 絶対に車両をジャッキアップした状態でその場を離れないでください。車両から離れている時に、万が一使用者以外の人が車両やジャッキを触ったりすると、ジャッキの破損や車両が落下し車両の破損だけではなく使用者以外の人にもケガや人命にかかる事故を負わせてしまうことになります。

!**注 意**

- ジャッキを下げる途中でジャッキのハンドル以外の場所には絶対に触れないでください。 ジャッキの可動部分に手などで触れた場合、はさまれてしまう可能性があり、ケガを負う場合があります。
- ジャッキを持ち運ぶ際や、ジャッキの上げ下げの際には、ジャッキの可動部分で指等をはさまないように注意してください。 ジャッキの可動部分に指などを入れますと、はさまれてしまう場合があり、ケガを負う可能性があります。また、1人で持って重いと感じ時は、無理に1人で持たずに、2人以上で持ち運びしてください。またジャッキを路面に下ろす際にも、路面とジャッキの間で指をはさんでケガをしないよう十分に注意してください。
- ジャッキのハンドルはジャッキアップ時以外は、必ず外しておいてください。 使用者または使用者以外がハンドルにつまずいてケガをするおそれがあります。またジャッキがはずれ車体が落下するおそれがあり大変危険です。必ずハンドルは本体から外しておいてください。
- ジャッキを下げる際は、ハンドルで必ずゆっくりとレバーでリリースバルブをゆるめてください。 バルブをゆるめる際、かたくなっているので力を入れて強くバルブを回しますと、車両が急激に落下し、車両およびジャッキの破損につながります。バルブをゆるめる時は、まずゆるめる側(左側)へ回し、バルブがまわったらすぐにしめる側(右側)へ回して少しずつ下げるようにしてください。
- ジャッキアップ中にジャッキポイントとサドルがずれることがありますので、時々確認しながら作業を行ってください。 ジャッキポイントからサドルがズレて外れてしまうとジャッキの破損ばかりではなく、車両の破損につながりますので時々確認してください。
- ジャッキアップする時は必ず各車両指定のジャッキポイントを確認してください。

必ずジャッキポイントが適切な位置か確認してからジャッキアップしてください、また、ジャッキポイントがわからない方は、使用前にカーディーラーおよび整備工場で確認してください。

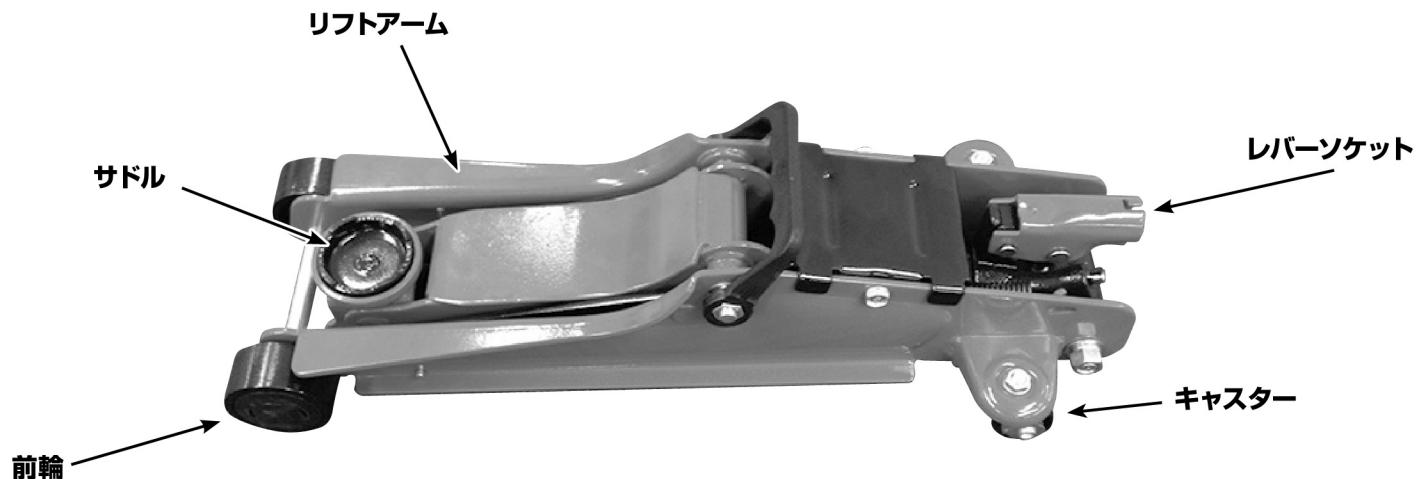
※このポイント(下図  部分)で本製品を使用すると車両を破損させるおそれがあります。このジャッキポイントでのご使用は、絶対にやめてください。



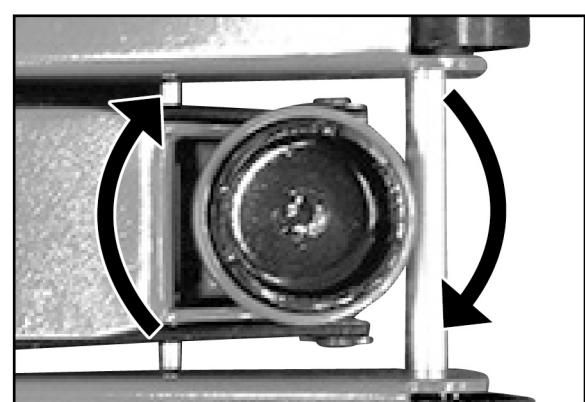
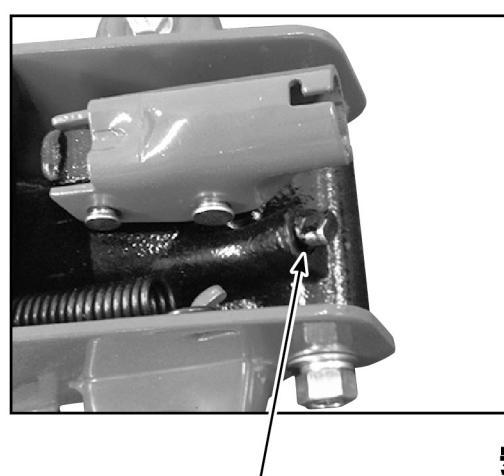
車両をジャッキアップさせる作業は様々な危険がともないます。十分に注意をし慎重に作業を行ってください。

- 購入時はリリースバルブは少しゆるんだ状態です。

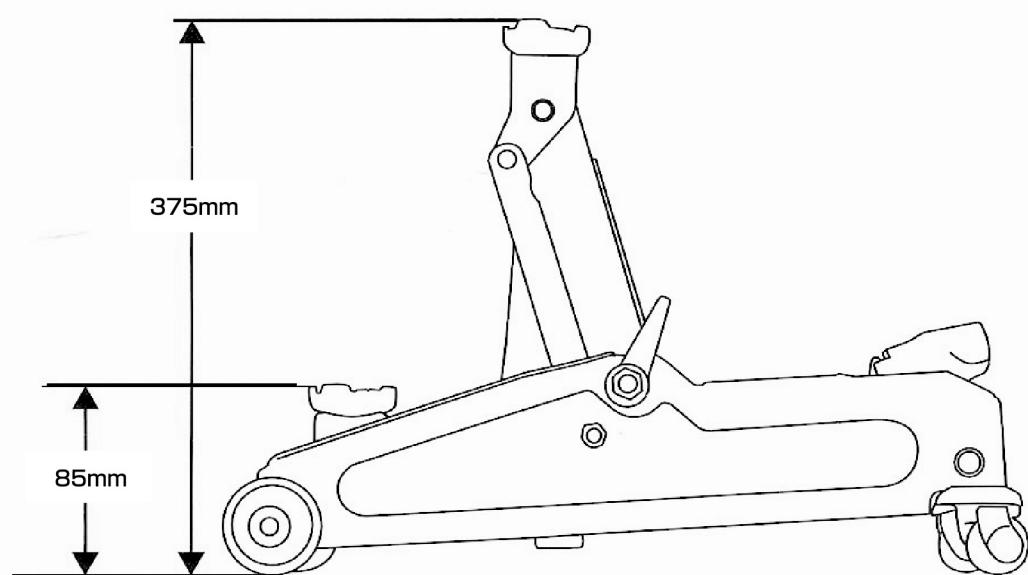
2 各部の名称



カバーを外した状態



安全バルブ(DO NOT ADJUST)
※絶対に触らないでください



3 ご使用方法

1. ジャッキを揚げる場合

- 平らで固い路面にジャッキを置き、車両のジャッキポイントの位置にサドルを合わせます。
- レバー先端をリリースバルブに差し込み、レバーを時計回り(右)に回して、リリースバルブをしっかりと締め付けてください。(図1)
- レバーソケットにハンドルを差し込み、上下に動かしてサドルをジャッキポイントの近くまであげて、いったん停止します。
- 荷重がサドルの中心にまっすぐかかるのをよく確認します。(図2)
- 確認ができたら、再度ハンドルを上下に動かして車両をジャッキアップします。

図1

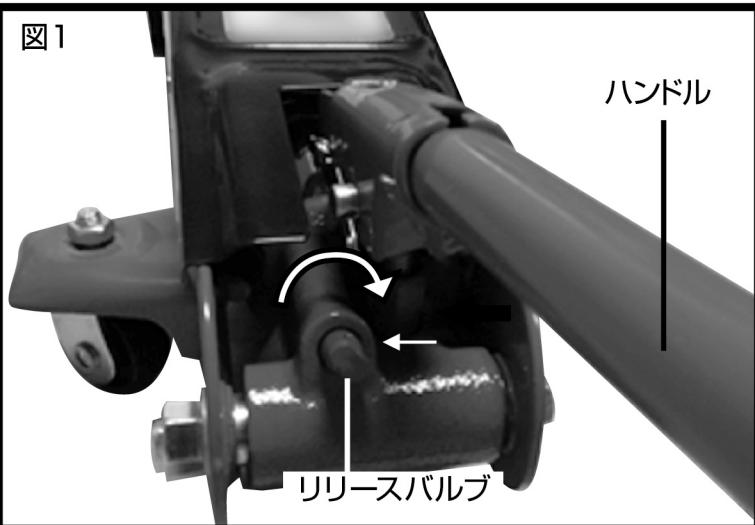
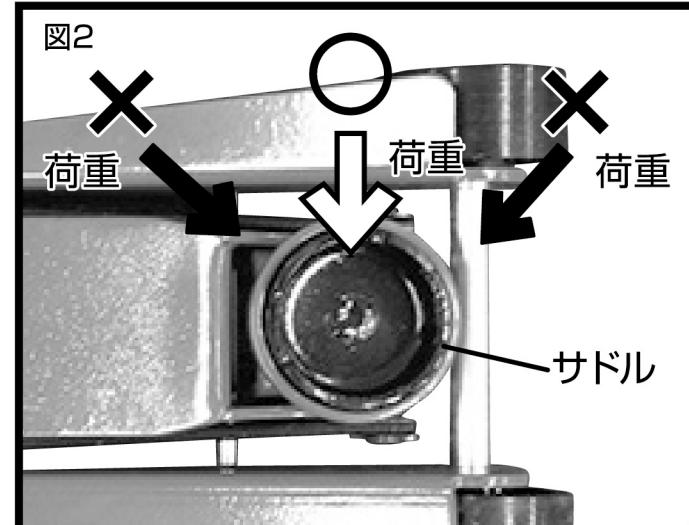
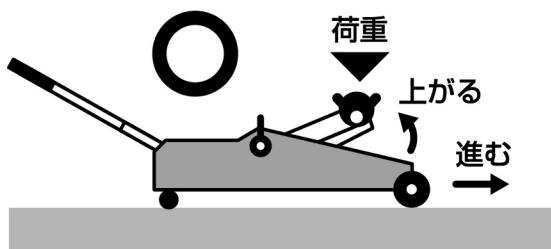


図2



強固な地面(可)



柔らかい地面はめり込んで進まない (不可)



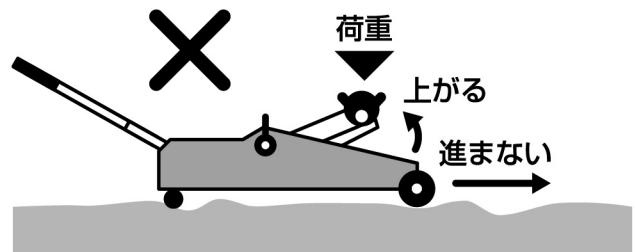
!危険

- 傾斜地や地面が軟弱な場所および平坦でない場所やジャッキの車輪が容易に回らない場所では、使用しないでください。ジャッキが傾いたり、サドルが外れて自動車が落なし 使用者が死亡したり負傷を負う危険があります。 また、傾斜地ではジャッキアップ中に自動車が動き出して重大な事故になります。

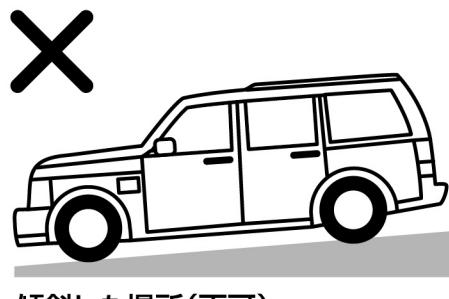
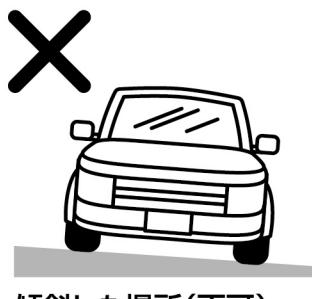
鋼板などの強固な板を敷いた場合(可)



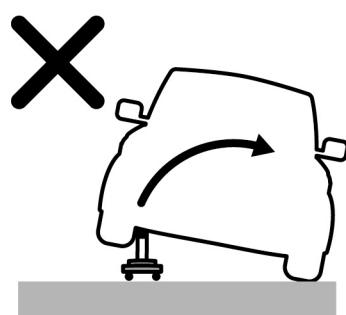
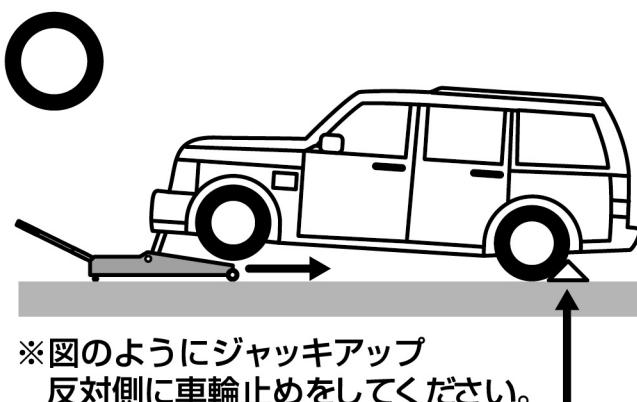
凹凸な地面は前に進まない(不可)



傾斜した場所や、勾配のある道路では使用しないでください。



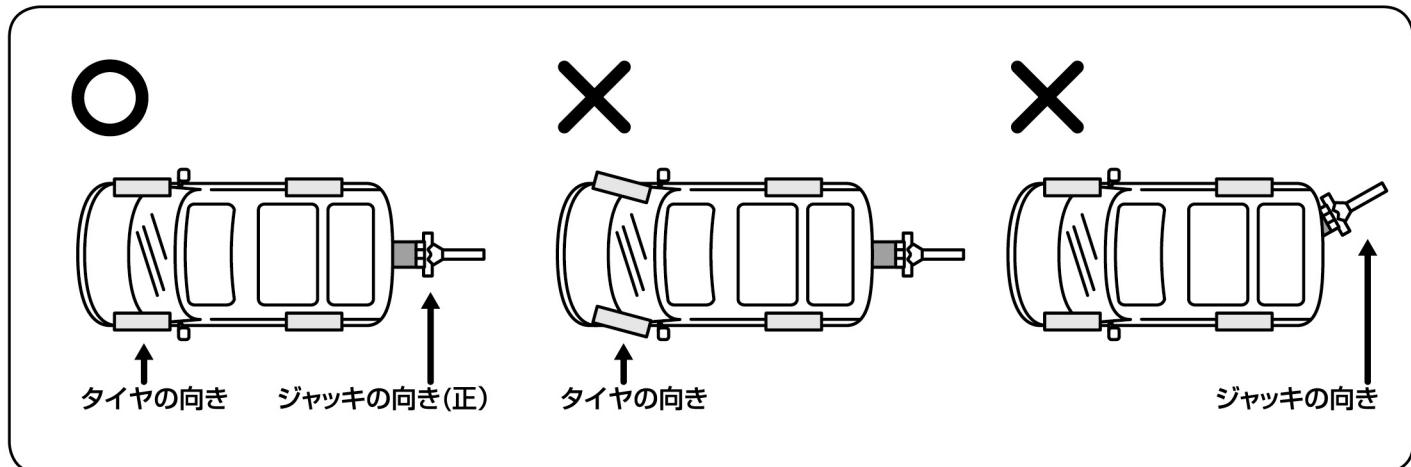
- サドルを上昇・下降させた時に、ジャッキが追従して移動することを確認してください。移動できないまま使用すると、サドルがジャッキポイントから外れ、自動車が落下し死亡事故や重傷を負う危険があります。



ジャッキポイントは車種によって異なります。自動車に添付の取扱説明書や自動車メーカー・販売店への問合せにより、必ず事前に確認してください。自動車メーカーの指定するジャッキポイント以外では、ジャッキアップしないでください。車体が変形したり荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。

⚠ 危 險

- ジャッキアップの際は、車のタイヤをまっすぐの状態にして、ジャッキを車体に対してまっすぐに入れてください。ジャッキの向きが斜めになっている状態でジャッキアップした場合、サドルがジャッキポイントから外れ自動車が落下し、使用者が死亡したり重傷を負う危険があります。



⚠ 注 意

- 重い荷物や人を乗せたままジャッキアップしないでください。
- 自動車のエンジンをかけたままで使用しないでください。
- ジャッキアップは、自動車のサイドブレーキをかけ、シフトをオートマチック車の場合は「P」に、マニュアル車の場合は「ロー」または「バック」に入れて行ってください。
- 左右車輪をジャッキアップする場合は、必ず車輪止めを使用してください。
- ハンドルの上下操作はハンドルをしっかりと握り操作してください。ジャッキに異常が発生した場合、ハンドルがはねあがったり急に操作が軽くなつて怪我をすることがあります。
- パンタジャッキ用の(サイドジャッキアップ)のジャッキポイントではジャッキアップを行わないでください。

2.一定の高さで停止する場合

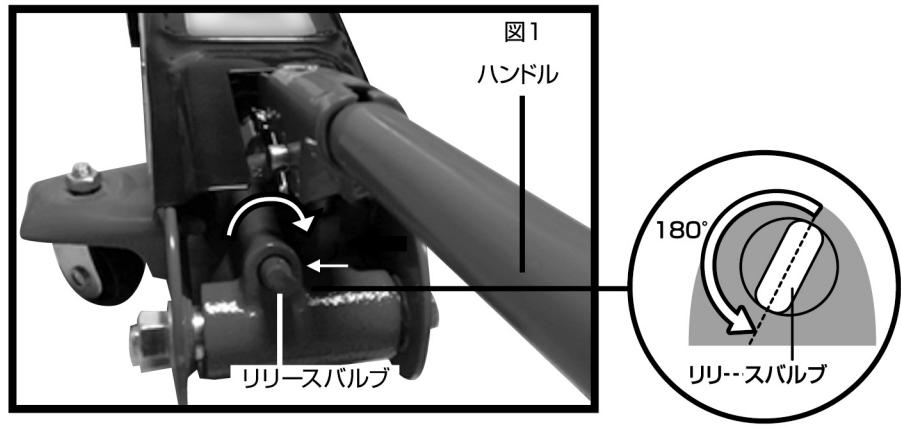
ハンドルの上下操作を停止すると、サドルが自動車を保持したままの状態になります。

⚠ 危 險

- ジャッキアップした状態のままで車体の下には絶対入らないでください。
車体の下に入って作業する場合は必ず十分な別売のジャッキスタンドをご使用ください。
- ジャッキアップした状態のままで自動車を移動させたり、車体に衝撃を与えないでください。

3. ジャッキを下げる場合

ハンドルをリリースバルブに差しこみ、
反時計方向(左側)に、ゆっくり回り
サドルを下降させてください、その際、
180°(半回転)以上回さないでください。
(図1)



⚠ 危険

ハンドルを急に回さないでください。サドルが急激に降りると自動車が落下し使用者が死亡したり重傷を負うおそれがあります。

⚠ 注意

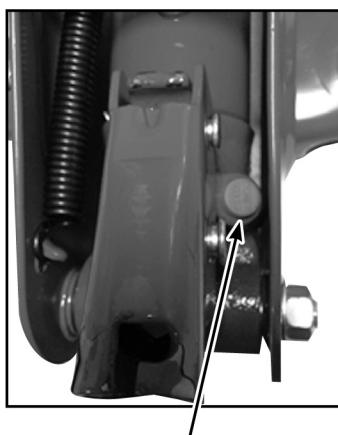
故障の原因になりますので、リリースバルブは3回以上回さないでください。

4. 作業終了

作業が終了したらサドル、リフトアーム、フレームなどに付着した泥、オイル、グリス、水滴などの汚れをきれいにふき取ってください。

5. 安全バルブ(DO NOT ADJUST)について

フロアージャッキには、安全バルブが付いておりますが、このバルブはジャッキアップが適正な荷重になるように出荷時に調整されておりますので、絶対に触らないでください。
(ジャッキに適正荷重以上の負荷がかかった場合、作動しないようになっています。)

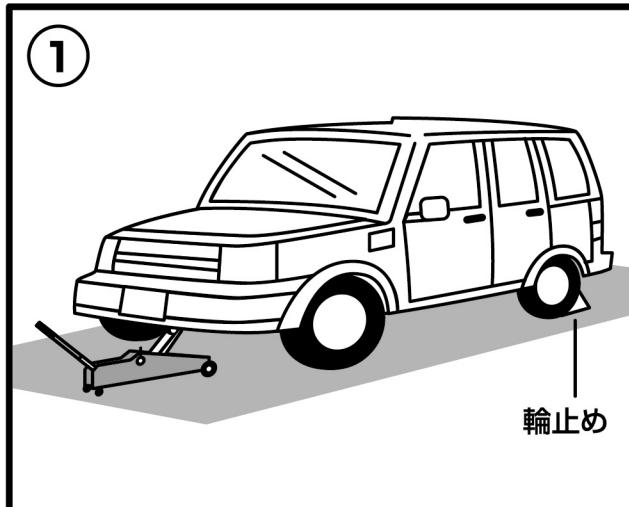


安全バルブ(DO NOT ADJUST)
※絶対に触らないでください

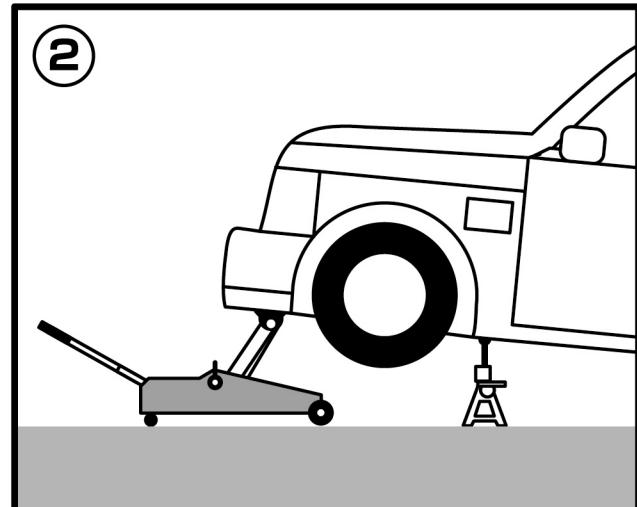
⚠ 注意

- 本製品をご使用の際は、必ず2トン以下の車両にてご使用ください。
- 車両をフロアージャッキで揚げたまま触らないでください。
- フロアージャッキで揚げたまま車両の下に、絶対に潜らないでください。大変危険です。
- 本製品はジャッキアップするためにご使用いただくものです。ジャッキアップ状態を保持するためのものではありません。ジャッキアップした状態のままで保持させる際は、必ず別売のジャッキスタンドをご使用ください。**
- 本製品は、業務用には使用しないでください。
- フロアージャッキを下げる際は、バルブを必ずゆっくりと回し、緩めてください。
(急に回しますと、車両がいっきに下がりますので危険です。十分ご注意ください。)

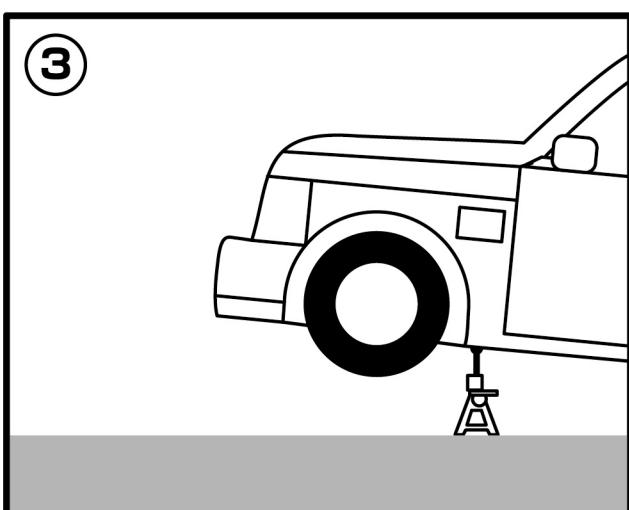
4 ジャッキアップの手順



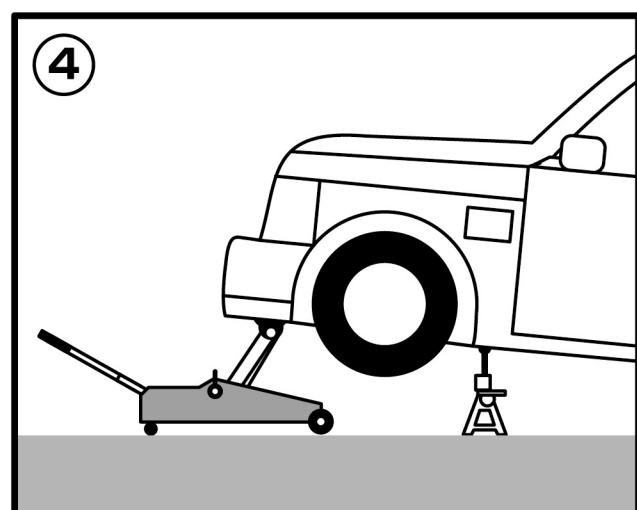
ジャッキを使用してセンターでジャッキアップします。
※ジャッキポイントは必ず確認してください。
また必ず輪止めをしてください。



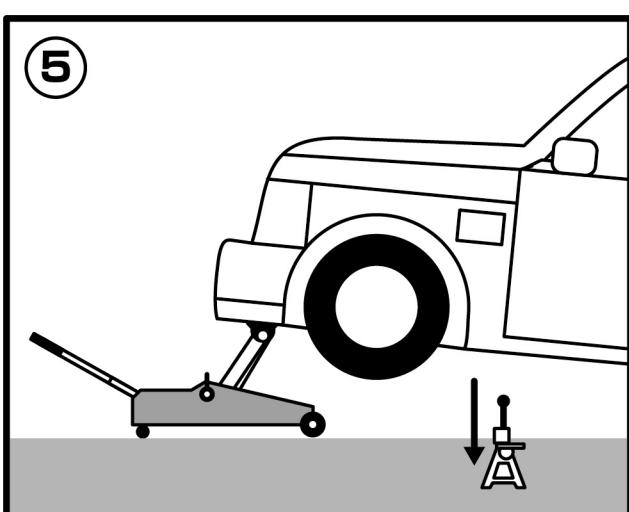
ジャッキスタンドをジャッキポイントに高さを
合わせて置きます。



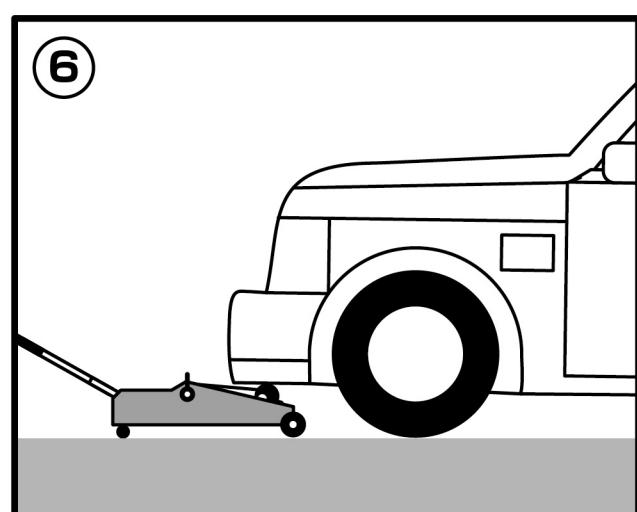
ジャッキを下げて移動させます。
※車体がジャッキスタンドで完全に固定されている
ことを確認後作業します。



作業が終わりましたら、ジャッキで車体を再度
ジャッキアップします。



ジャッキスタンドを取り除きます。



ジャッキをゆっくり下げます。

⑤保守・メンテナンス

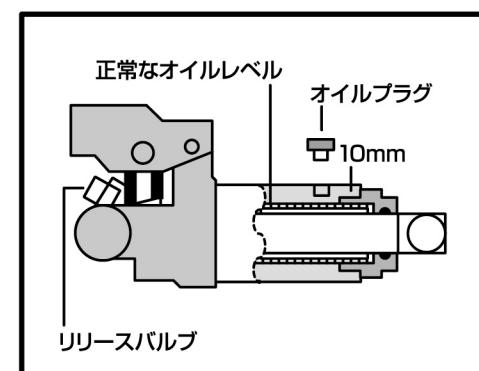
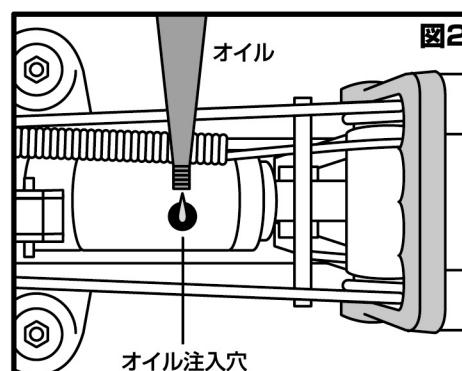
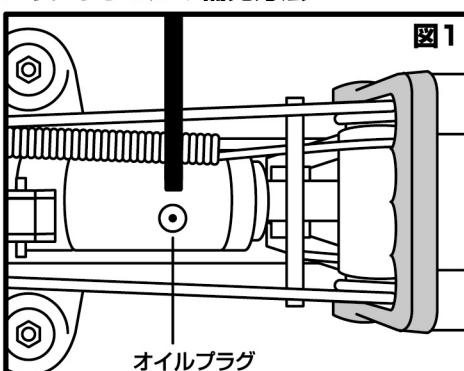
1. ジャッキのお手入れ

- ・ジャッキを使用しない時は、錆などによる動作不良防止のため、リフトアームおよびレバーソケットを最下部まで下げるおいてください。
- ・ジャッキは常に清潔にして、可動部分に時々注油してください。
- ・オイルの量が減少した場合、下記ジャッキオイルの補充および交換参考の上、適量を補充してください。
- ・頻繁にご使用になる場合、良好な状態を保つため、約1年毎にジャッキオイルを交換してください。
(下記2のジャッキオイルの補充および交換参考)
- ・錆や動作不良などの故障の原因になりますので、雨や雪の当たる所および湿気の多いところには保管しないでください。

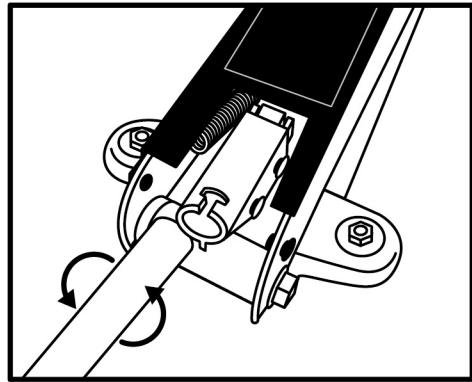
■ ジャッキオイルの補充及び交換

- ①オイルプラグを14mmの六角ソケットとマイナスドライバーなどで外して、リリースバルブをゆるめます。(図1)
- ②オイルプラグの穴を下に向けて、古いオイルを排出してください。
- ③ほぼ完全に排出した後に、ジャッキオイル(別売)をオイルプラグの穴から入れすぎに注意して、少量ずつ注入してください。また、オイル注入中にゴミが入らないように注意してください。(図2)
- ④ジャッキオイルの適正量は、リフトアームを最下位まで下げた状態でオイルプラグの穴から油面まで、約10mmの空間を設けた位置です。
- ⑤ジャッキが途中までしか上がらない時は、ジャッキオイルの不足、またはエアー抜きが完全にできていないことが考えられますので、ジャッキオイルを適正な量まで補充して、エアー抜きしてください。
- ⑥補充作業が終了したら、オイルプラグを元の状態に戻してください。

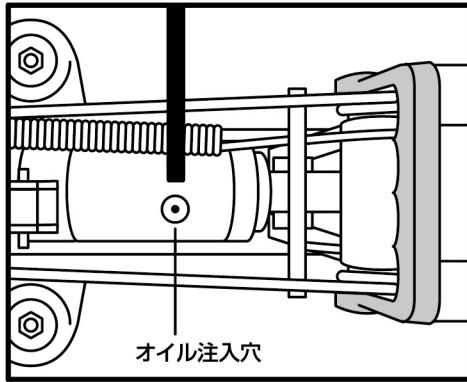
ジャッキオイルの補充方法



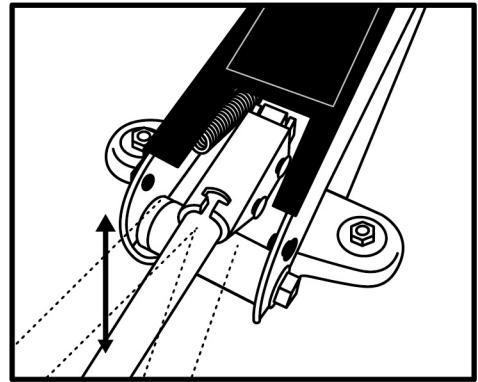
エア抜きの方法



レバーを左に回してリリースバルブをゆるめてください。(2~3回転)



オイルプラグを少しづらめてください。



レバーをソケットに差し込み、上下いっぱいにポンプ操作してください。(すばやく5~6回)その後、オイルプラグをしっかりと締め、カバーを閉じてください。

※正常に作動しない時は、2~3回くりかえし行ってください。

!**注 意**

- 火気のある場所やその近くでオイル交換および補充をしないでください。
- エンジンオイルやその他のオイルは粘度等が違うため作動不良の原因となりますので絶対に使用しないでください。必ずジャッキ専用オイルを使用してください。作動油:油圧潤滑油(粘度:ISO VG 10をおすすめします)
- ジャッキオイルを補充する際にオイルタンク一杯にジャッキオイルを入れるとジャッキが作動しません。必ずリフティングアームを最下位に下げた状態でオイルプラグの穴から油面まで約10mmの空間を設けてください。

6 故障と処置

故障かなと思われる前に、もう一度取扱説明書をよくお読みになり、下記の点検をしてください。それでも、状態に変わらない場合は、弊社へご相談ください。

症状	原因	対策
適正負荷でジャッキアップしない	オイル不足	オイル補充
	リリースバルブ絞め忘れ	リリースバルブを確実に締める
	油圧ユニットの故障	弊社へご相談ください
ジャッキが上で停止しない (自然に下降する)	オイル不足	オイル補充
	オイル漏れ	弊社へご相談ください
	リリースバルブ絞め忘れ	リリースバルブを確実に締める
ジャッキが最高位まで揚がらない	オイル不足	オイル補充
	油圧ユニットに空気混入	空気抜きをする
	しゅう動各部の錆	潤滑油等で動部へ注油
ジャッキが最下位まで下がらない	リターンズスプリングの錆び、へたり	リターンスプリング交換
	油圧ユニットに空気混入	空気抜きをする

7 製品仕様

ジャッキ最大荷重	2000kg
最高位(mm)	375
最低位(mm)	85
ハンドル径(Φmm)	21.3
ハンドル長さ(mm)	500
使用作動油	ISO VG 10
使用温度範囲°C	-10~45
揚幅(mm)	290
本体サイズ (長さ×幅×高さ)(mm)	560×212×130
重量(kg)	13

8 関連製品



タイヤストッパー



ジャッキスタンド